みんなの知りたい なんでもQ&A

佐藤学芸員

今年は巳（へび）年だね。みんなの家族の中には巳年の人はいるかな？　干支（えと）になるほど人間の身近で生きているのがヘビだけど、ヘビの詳しい生態（せいたい）は知らない人が多いかもしれないね。

今週のテーマは

ヘ　ビ

文：徳島県立博物館・佐藤陽一学芸員
絵・デザイン：徳島新聞写真美術部・大塚吉雄

Q.ヘビの仲間は何種類いるのですか？

A

世界中で2,700種以上もいるよ。南極大陸以外のすべての大陸と周辺の島々に生息するけれど、変温動物なので熱帯や亜熱帯地域に多く、寒い地域では少ないよ。

日本に分布するヘビ類は少なくて全部で48種（外来種を含む）、うち徳島県には10種（タカチホヘビ、シマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ、マダラウミヘビ、エラブウミヘビ）がいるんだ。ただし、最後のウミヘビ2種は黒潮に乗ってたまたま流れ着いたと考えられるよ。

ヤマカガシ。この個体は本州（長野県産）のもの。四国産の個体はもっと黒ずんでいるものも多い。有毒

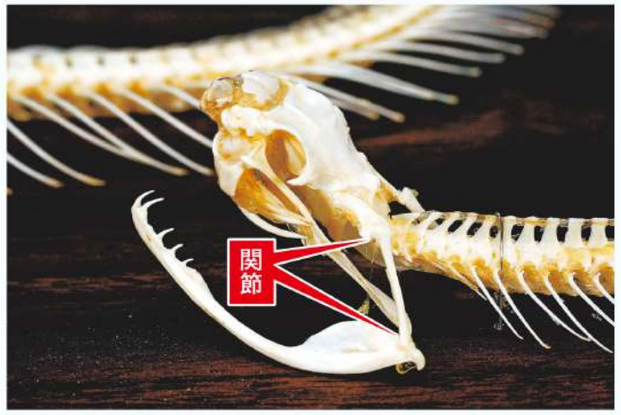
エラブウミヘビ。2003年8月、美波町由岐の定置網に入ったもので、徳島県で捕獲されたのはこれが初めての記録

Q.ヘビは何を食べますか？

A

同じは虫類の仲間のカメやトカゲの仲間には草食性のものもいるけれど、ヘビの仲間はすべて肉食性で、昆虫やミミズなどの小動物、魚類、鳥、ネズミやもっと大きな哺乳類、そしてヘビを食べるヘビもいるんだよ。

ヘビの口は一見小さく見えるけれど、下あごの関節が二重になっており、大きく開くことができるんだ。また、左右の下あごの先端は伸び縮みできるじん帯で結ばれており、獲物に応じて別々に動かすこともできるんだ。だからニシキヘビの仲間のように、ヤギなどの大きな獲物でも、絞め殺しておいて丸のみすることができるんだよ。



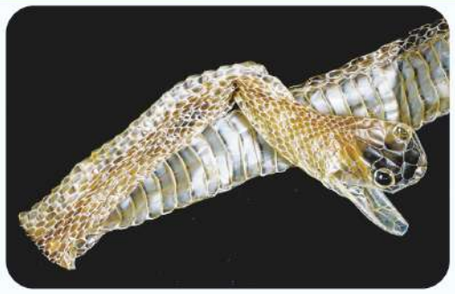
ガラガラヘビの頭骨と下あごの関節

Q.ヘビにはどうして鱗（うろこ）があるのですか？

A

ヘビにも一見すると魚のような鱗があるね。でも魚の鱗は骨質の板で出来ているけれど、ヘビの鱗は角質の板で出来ているんだ。

ヘビはこの鱗によって体を衝撃から守るだけでなく、乾燥を防ぐこともできる。それに薄いので軽く柔軟で、特に腹側の鱗は横に幅広くキャタピラーの役割をしているんだ。だから手足がなくても自由に動けるというわけなんだ。



アオダイショウの脱皮片（2012年8月、佐那河内村産）。鱗の様子がよくわかる。成長に伴い脱ぎ捨てる

Q.日本にはどんな毒ヘビがいるのですか？

A

マムシ（ニホンマムシ）が毒をもっていることはみんな知っているね。日本にすんでいるヘビのうち、ウミヘビの仲間と沖縄や奄美など南西諸島に生息するハブの仲間も毒ヘビだよ。これら以外に本州・四国に普通に生息するヤマカガシも有毒なので気をつけてね。

ヤマカガシの毒牙は上あごの奥にあるため，まともに噛まれない限り毒液を注入されることは無い。ただし毒性はたいへん強く、マムシやハブよりもはるかに強いので注意が必要だ。さらに首筋の背面にも毒腺があり、ここから毒液を噴射することもできるんだ。これが目に入ると危険なので、顔を近づけないでね。

本州・四国にすんでいる他のヘビは毒をもっていないけれど、噛まれてあわてて外そうとすると、思わぬ傷を負って感染症にかかることもあるよ。だからやっぱり気をつけてね。

コラム　ヘビを飲み込むカエル

トノサマガエルに飲み込まれようとしているヘビはヒバカリです。水田や湿地の近くに住み、カエルやオタマジャクシ、小魚、ミミズなどの小動物をエサにしているヘビで、普通はこのような光景はありえません。たまたま弱っていたのか、タイミングが悪かったのでしょう＝2011年9月、上板町神宅（稲井和代さん撮影）

カエルがヘビを飲み込むなんて驚きだね！